

日本教育大学協会が附属学校連絡協議会を開催

日本教育大学協会（会長＝出口利定・東京学芸大学長）は、附属学校連絡協議会を6月3日（土）、お茶の水女子大学講堂（東京都文京区）で開催した。

冒頭、出口会長の挨拶では、「昨年9月文部科学省に『国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議』が設置され、国立附属学校園に対して様々な課題が指摘されるとともに、附属学校園のあり方や役割の明確化が求められている。さらに国立大学協会においても、教員養成や研修に果たす国立大学の使命や将来設計などを検討するワーキンググループが設置される予定と聞いている。このような情勢の中で、我々の果たすべき役割はますます重要となっていくと思われるが、一方では教員疲弊が叫ばれている現状において、附属学校教員が安心して教育・研究に専念できる環境整備のために、本協議会を情報交換・共有の場として活用してもらいたい。」と述べた。

協議会の前半には、現場の管理職である参加者が最新の知見を学ぶ機会を提供するために、有識者会議の委員でもある田中一晃全国国立大学附属学校連盟事務局長から、有識者会議で議論されている主な課題や期待される対応など、附属学校園を取り巻く現状について説明があった。

引き続き、「ガバナンス改革」をテーマに、金子一彦東京学芸大学附属学校運営部長による講演会を行った。都立学校改革や附属学校のいじめ問題対応などを事例に、附属学校園の改革の展望について発表があり、その後参加者から様々な意見や質問が出され、活発な意見交換が行われた。

最後に、丸山研一副会長（千葉大学教育学部附属中学校長）から、附属学校委員会の平成28年度の活動報告があった。



出口会長



丸山副会長



田中全附連事務局長



金子学芸大学
附属学校運営部長



会場の様子